



6/04 ナスに竹の葉・枝・茎でマルチする ジャガイモ茂る

6/28 この鉢に 4 杯ほど収穫

栽培の終わったジャガイモ畝は、かなり有機物の多い「黒土」になっている。「土」は、しっとりとしていて、ミミズがちらほら…いる。見かける。

パパイアの根穴に透明で小さなミミズが沢山おりました。その者達が芋畝に散らばって、土が良い状態である。イモは、国華園で仕入れた布鉢に取り込みました。

この鉢には、取っ手が付いていますので、扱いやすい。収穫袋として使ったり、「糠」等の有機物を入れて運んだり、色々使える。大きさも特大、大、中、少、と色々有り便利である。布製(不織り布)で、穴が無いのが良い。

この鉢に、籾・籾殻燐炭などを芋の隙間入れて、保管する。3月に1度ぐらいで、鉢上から少々散水。乾き過ぎないようにする。種芋の保存である。

追肥用の深溝に積んでおいた刈草を引き出して、黒土の上に置く。土との接触面にカビが…。トビムシ、ゲジ、カミキリムシ、クマム…が寄って来る。土中のミミズも肥えてくるであろう。カニ殻も仕入れて撒こう。

それにしてもスマホの勝手な情報には困ったもんだ。これは、疲れる。排除できないものか？。困ったもんだ。このところ、激増している。じゃまだ！。暴力に近い。困ったもんだ。

スマホの検索機能はスゴイヨ。「ジャガイモ栽培のコツのコツ」を引けば、たちまち動画で説明者が現れる。「トマト」「ナス」「キュウリ」、然り。何度でも現れる。でも私の操作力ではプリントアウトできない。見る。でも、聞くのとプリントしたものを読むのとは違う。野菜づくりは、一年に一度の体験で、失敗したくない。スマホの動画は、それだけなものだ。何事でも体験しないとネ。見る・聞くだけでは、解ったと、出来たことにはならない。それに、説明者の話がうるさい。見なければよいだけだが…。

ナスの株に多量の水を注ぐ。例のパパイアの切り口の漏斗に、ホースから

直接注ぐ。腐れた水管に注ぐ。 ナスの勢いがすごくなる！。 太穴の水管の周りの「土」は団粒化している。それで一気に潤う。 「玉肥」小粒で追肥。「糠」も草マルチの上に置く。カカ・ラカなのである。 ただそれだけ、後は水やり。これで、印度東南部のモンスーン地域の気候、風土に合わせたのである。

キュウリ キュウリの成長に異変が(6/30)。 ヒョウタン曲がり、先細り……。そこで、新苗を3本植えた。捕植する。 8・9月用の品種をオザキフラワーセンターで探そう。 苗が500円前後もする。 高い！。 去年の場合、植え替えたものの、4～5本も採れなかった。 スーパーで買った方が安い。美味しくないけど。

中央通路、畝の深溝でできた有機肥料をすくってキュウリ畝に薄く撒く。刈草を置く。刈草マルチの強光対策である。 とにかく熱い。乾燥する。 この空梅雨の難をどう逃れるか、大変な夏になりそうだ。 朝夕の水やりは、欠かせないであろう。 防暑マルチをどのようにするか、野菜たちの組み合わせをどうするか……。

強光に強いと言うとサトウキビ、トウモロコシ、パパイヤ……。 トマト、ナス、キュウリ、これらの夏野菜も日焼けして、枯れる。

そう、中南米原産のインゲン日照りに強い。 インゲンの棚に入ると「涼しい」。 これは使える。 酷暑を見越して育ててあげればの話であるが。 苗は弱い。 根を深くに張れていればの話である。 水枯れに気をつけたい。

雲南百葉草(オカワカメ)も強そうだ。 使ってみよう。 天空をネットで覆い、蔓物の野菜を絡める。 あたりが涼しくなる。 これしかありません。

去年のパパイヤは良かった。日陰を作った。 背丈が2メートル越で、区の農事課から指導が入る。 で…、2mで、切る。

花落ち、若実落ちの原因は何であろう。 異常な暑さ、乾燥⇒水切れ、養分切れ… 木の老化…。 トマトもインゲンも実が付かない。実が落ちる。 トマトーンの出番か？。 スイカ名人の田中(故人)さんも使われていました。 使い方の難しい植物ホルモンである。 とにかく元気・健康に育っていないからである。 トマトは、刈草マルチの多用が原因で、N肥を使い果たして、養分不足になったのかもしれない。 しばらく化成8・8・8に戻してみようか。

完全不耕起、完全有機無農薬栽培の信念は、変えたくない。 ナスでもトマトでも健康・元気野菜でないと、「実」は付かない。 答えはそこだ！。 猛暑に負けない木を作ることだ。

インドのナスの原産地では腕程の茎になるそう。 トランペットフラワーのように「実」がぶら下がると言う。 アンデスのトマトも放任栽培で肥料を与えれば、「実」が成り続けると言う。

小庭の果樹たちにも散水が必要であろう。 とにかく恐ろしい日照りである。 水不足でか、若実が激しく落ちている。 このところの熱波と乾燥で、柑橘類たちの「幼果」が激しく落ちる。 期待していたスプリングアーリーの「実」

も。 完全に「梅雨」は明けた。

このとこの暑さで、小池のオタマジャクシが死滅。全滅。池も腐る。 ヘドロを漉くって、落ち葉溜まりの山にかける。 水を入れ替える。

20 年も続いて、メダカを水槽に飼っている。 生き継いでいる。 今日、まだ 6 月 30 日なのに、晴天続きで、暑すぎるヨ。 気づけば、ガラス水槽の水の蒸散も激しい。

ス イ カ スイカは、今年は当たり。 中玉スイカも植えておけば良かった。 植えてあるミニのスイカは、元気。 大玉でも良かったかな。 楕円形の小玉スイカを作っています。 今日(6/30)、親指先の大きさの「実」が付きだしている。

スイカは、アフリカ・サバンナの植物。 強光に強い。 で、今年は当たり年であろう。

去年 6 個の収穫がありましたから、倍増の 12 個はいただきたい。どうなることやら。 黄色皮の 2 本はキュウリ棚に這い上る。緑色のミニは地這。 ミニを選んだ理由は、作り易いことと、冷蔵庫に丸ごと入るからであります。 スーパーで 1 個 1100 円で売られている。 捕らぬ狸の皮算用。 楽しみは作らないとネ。

ツルムラサキ 雲南百薬草と同じ仲間である。 「強光」に強い野菜で、頼もしい。 お味の方は、いささか美味しくない。 強力な蔓性の植物で良く棚に這い上がる。 井桁に組んで天井にネットを張れば。緑陰が手に入る。 この熱帯植物は、頼もしい。

手持の「野菜の伝来」の本に出て無いと言うことは、新参者だ。 9 月になっても強烈な暑さではかの野菜たちが枯れあがったりすると、どこかの新聞のトピック記事に出てくるかもナ…。

2 度茹でて臭みが抜けると思います。慣れてくれば生でサラダ…。 まだ、やってはいないが。 とにかく臭いが気になる野菜だ。 バター炒めに合いそう。 ベーコン入れてジュー。 臭いが「匂い」に化けるかも、 強力な健康野菜であるようだ。 ホウレン草、越だ。 探せば、まだまだ強光に耐える野菜が色々あるもんですネ。

耕作区の通路側の雑草は抜かない。 土中に深く根を張り深い所の「水」を吸い上げる。 去年の古根に繋がっていく。 吸い上げ給水ポンプだ。 草原(くさはら)は、ちょっとした事では枯れませんか。…。 通路が涼しい。通路の草は、農園を涼しくする。 背丈が伸びてきたら、刈り取って敷き草にする。 少々手間がかかるが、私は刈り取る。 種をつけないうちに、刈り取る。 畝間に敷く。置く。 畝の上に敷く。

最近の菜園の様子





6/04 竹でマルチする



6/06 ジャガイモの繁殖ぶり



6/20 キュウリが節ごとに成る



6/27 ナス元気 多肥好き 水好き



6/30 水 養分少々少なめに 大玉トマト



6/28 手前は、ジャガ跡 後方はサトイモ

この「農園便り」は、GA東京の矢部さんによって、同GAのホームページ、「会員の活動」「筒口典康」で検索できます。同氏のかいつまんだ、読みたくなるような案内が嬉しい。スマホやコンピューターで見ますと、写真なども拡大できますし、写真の日付も読めるようになります。T、